

区の目標

「活気があり、笑顔にあふれ、常に進化するまち」
（「住みたい」「事業したい」と選択されるまちへ）

区の使命

地域のつながり意識を醸成し、住民同士や事業者間の連携を強化することで、子育てしやすく安全・安心できれいなまちづくりを実現させ、まちに更に活気が出るように区の魅力向上を図る。区民の皆様と課題を共有しさまざまな面で更なる進化をめざし、「住むなら西淀川」と言われるようなまちづくりを進めること。

令和6年度 区運営の基本的な考え方

次の5つを柱とし、住民同士や事業者間のつながりを大切に、地域が主体的に活動できるように支援する。高齢化・人口減少が見込まれる中で、地域活性化のために区民や事業者等の新たなつながりの創出や更なる連携強化を図り、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進しながら、様々な活動主体と共に創してまちの魅力を向上するとともにまちの魅力を可視化し拡散していく。

令和6年度 西淀川区運営方針（案）

経営課題1 区制100周年（2025年）に向けた、官民共創による「選択されるまち」としてのまちの魅力向上（R6予算：14百万円）

課題認識	<ul style="list-style-type: none">○西淀川区において、今後、高齢化・人口減少が見込まれ、「住むなら西淀川」と言われるよう、SDGs推進、健康寿命の延伸の取組先進区をめざし、まちの魅力向上を図る必要がある。○区の抱える多様化・複雑化する地域課題の解決、まちの魅力向上に向け、官民連携にとどまらず官民共創を推進する必要がある。○情報の一元化やデジタル化の深化等により、区民への情報提供の向上、利便性向上を図る必要がある。
主な戦略	<ul style="list-style-type: none">○「にしよどがわ万博」を開催し、大阪・関西万博の開催意義である「SDGs達成」に向け、多くの区民、団体、企業等を巻き込みSDGs推進を図る。○民間企業のもつ視点やノウハウを活用するために、官民共創を主体とした「ウェルビーイング西淀川」において「区民のがんリテラシーの向上」や「区内企業の健康経営の推進」などに取り組む。○区公式LINEなどの更なる充実等により、「伝わる情報発信」をめざす。

経営課題2 こどもたちがいきいきと育つ環境整備（R6予算：124百万円）

課題認識	<ul style="list-style-type: none">○孤独・孤立を防ぎ、こどもと保護者に寄り添う支援が必要
主な戦略	<ul style="list-style-type: none">○区内すべての小中学校に週に1回スクールカウンセラーを配置し、相談室での個別カウンセリングや、こどもサポートネット事業とも連携し、心理的な観点から専門的な知識や技術を活かした助言を行うことで、いじめや不登校等の学生生活の課題やヤングケアラーなどの家庭問題を早期発見、対応し、より一層の支援につなげる。○主に就学前のこどもと地域の子育て支援機関をつなぐコーディネート機能を担う利用者支援事業において、「こそだてコンシェルジュ」が子育ての悩みに寄り添い、子育て支援の各種サービスの案内や保育所入所にかかる相談を行う。

経営課題3 地域コミュニティの機能向上 (R6予算：13百万円)

課題認識	価値観の多様化やプライバシー意識の高まり、地域への愛着・帰属意識の低下などにより地域における人と人とのつながりが希薄化している。一方で、大きな災害等の非常時の助け合いや、子どもや高齢者の見守りなど、地域の防災・防犯対策には、地域を基盤とした人と人とのつながりの大切さが改めて認識されている。また、地域の諸活動を担う人材の不足が懸念されるため、地域とともに地域の担い手となる人材を確保し、その育成に努めていく必要がある。地域社会が抱える諸課題に対応し区民が安心で豊かな生活を営むことができるよう、新たな時代に対応した地域コミュニティの機能の構築及び強化を図る必要がある。
主な戦略	<ul style="list-style-type: none">○新たにマンションが着工されるエリアの町会の意向を確認のうえ、建築事業者等に町会加入について強力に働きかける。（年間約10棟の新たな大規模マンションが着工されている。）○希望する町会に対して町会加入促進計画を作成するとともに、作成した計画に基づき区役所と地域が一体となって加入促進対策に取り組む。○担い手不足が課題となっている市民活動団体に対してヒアリングを実施し、関連団体との連携促進や体制・機能の再構築の支援を実施する。

経営課題4 防災力の強化 (R6予算：12百万円)

課題認識	<ul style="list-style-type: none">○災害時、単独では避難が困難な方に対する個別避難計画を作成する必要がある。○防災に対する意識、備えにおける区民・企業理解の差を解消し、一定の理解を確保する必要がある。○避難所運営において、女性視点や多様性配慮の視点を考慮する必要がある。
主な戦略	<ul style="list-style-type: none">○地域や福祉医療専門職と連携して、優先度の高い避難行動要支援者の個別避難計画を重点的に作成する。限定した地域をモデル地域として、集中的に取り組むとともに、個別避難計画の必要性の理解を深めるため、顔の見える関係づくりを進める。○小中学生対象の防災教育プログラムを拡充する。○地域・学校・企業等と連携した防災訓練等の実施により、若年層・企業等の防災の関わりを強化する。○女性視点や多様性配慮の視点を反映した備蓄物資の配備をする。

経営課題5 誰もがいきいきと暮らせる温かいまちづくり (R6予算：8百万円)

課題認識	<ul style="list-style-type: none">○日常生活に関わるさまざまな問題や課題を、住民の方と行政や関係機関等が連携・協働して改善や解決につなげるための仕組み（地域福祉計画）を推進していく必要がある。○区内の様々な専門的な相談機関が、分野を横断した総合的な相談支援体制の充実が求められる。○職員の福祉力を強化することにより、様々な困難を抱えている方々を気にかけ、気づき、必要な支援につなげることが求められる。
主な戦略	<ul style="list-style-type: none">○多様な福祉の課題解決に向け情報を共有するため、地域包括支援センター、ブランチ、基幹相談支援センター、民生委員・児童委員など異なる分野の関係機関による学習会・連絡会を積極的に開催することで、支援がスムーズに行える枠組みを速やかに整えるとともに、困っている人だけでなく、支援者も孤立しない体制を構築する。○職員の中で課題にあがっているテーマについての研修を複数回実施することにより、区役所職員の「気づく力」を向上させる。○地域福祉計画の具体的な取り組み（「福祉語ろう会」、「ちよこっと♡助っ人ボランティア制度」、「ウェルカムバンク」、「となりのお節介さん」）について、制度や具体的な取り組みなどを区内の事業者や地域で活動している方に積極的に情報提供を行うことで、地域福祉計画の更なる推進をバックアップする。